

第 39 回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム開催について

開催趣旨

生体膜は細胞の内と外を仕切る境界であり、物質の輸送やシグナルの伝達を媒介するインターフェイスとして生命維持に欠かせない役割を担う。したがって、栄養や薬物などの相互作用の観点から生体膜の役割を明らかにし、その新たな機能を見出すことは、創薬の基盤となる情報や技術を生み出すと考えられ、近年ではその研究成果に多くの注目が集まっている。本シンポジウムは薬学会の主催する多くのシンポジウムの中で最も長い歴史を有し、毎年 1 回開催され、全国から著名な研究者が参加する。生体膜と薬物の相互作用をキーワードとして、創薬、薬物代謝・輸送、トランスポーターの構造と機能、細胞内シグナル伝達、DDS など幅広い分野にわたり、最新の話題提供と討論を行うことを目的とする。さらに、実行委員の専門性を生かし、脳疾患、細胞内物質輸送、人工膜、オルガネラ膜、膜物性に関する特別講演およびミニシンポジウムを実施する予定である。

開催概要

1. 会議の名称 第 39 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
2. 会 期 2017 年 10 月 26 日（木）～ 27 日（金）
3. 会 場 金沢商工会議所会館
〒920-8639 金沢市尾山町 9 番 13 号 TEL 076-263-1151
4. 参加予定人数 160 名
5. 主 催 日本薬学会物理系薬学部会
6. 実行委員長 玉井 郁巳（金沢大学薬学系・教授）
7. 事務局 第 39 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム事務局
〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学薬学系 薬物動態学研究室（担当、中西猛夫）
TEL: 076-234-4479, FAX: 076-264-6284
8. 開催目的 生体膜と薬物との相互作用に関する最新の情報を交換し、創薬基盤研究への応用展開の可能性について討論を行う。
9. プログラム（予定）
 - 1) 会議の日程/会場（会場へのアクセスは次頁参照）
 - 2) 主なプログラム
 - ・ 特別講演
金沢大学バイオ AFM 先端研究センター（生物物理学）安藤敏夫
（仮）「高速原子間力顕微鏡（高速 AFM）の開発とそのバイオ応用の研究」
 - ・ ミニシンポジウム（2つのセッションとして実施）
現在企画中
 - ・ 一般公演（口頭発表）
 - ・ ポスター発表

金沢商工会議所会館へのアクセス（周辺マップ）

